

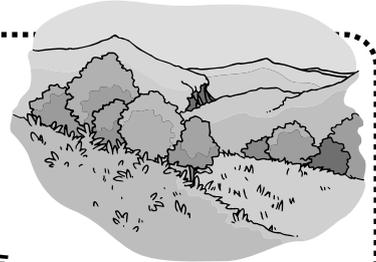
ちば里山新聞

(第15号)

編集 発行 ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

第5回里山フェスティバル開催

地球温暖化防止、生物多様性保全など地球環境に対する
 関心が集まる今だから.....



◎里山体験 ◎里山シンポジウムに参加しましょう。

美しい千葉県の里山を守るため「里山条例」では、5月18日を「里山の日」と定めています。
 この「里山の日」に、広く県民に里山に対する関心と理解を深めるために、今年も実施します。

◎里山体験

里山月間である5月の毎週末には、実際に里山に触れる機会を設け、里山活動への参加意欲を高めることを目的として、植樹や草刈り、自然観察などが体験できる「里山体験」を県内地域で行います。奮ってご参加ください。



子供の手を借り植樹



マキ割り初体験



青竹でご飯炊き

6つの里山体験コース

里山体験コース名(開催地)	日時	送迎バス集合場所	集合時間	定員
1 歴史の里「宇麻貝多(うまくた)の山の学校」探訪コース(木更津市)	5月10日(土) 10時~15時	NTT千葉支店前(JR千葉駅から徒歩5分)	8時30分	80名
2 養老溪谷で里山づくりとハイキングコース(大多喜町)	5月11日(日) 10時~15時	NTT千葉支店前 JR外房線茂原駅南口	8時 9時	50名
3 「ヒューマンリゾートながら」ふるさと再生大作戦と竹細工体験コース(長柄町)	5月17日(土) 9時30分~15時	NTT千葉支店前	8時30分	60名
4 手賀沼湖畔の里山植樹体験と水上自然観察コース(我孫子市)	5月24日(土) 10時~15時	クレストホテル柏前(JR常磐線・東武野田線柏駅西口から徒歩5分)	9時30分	40名
5 文化の里で森の手入れと竹細工体験コース(匝瑳市)	5月25日(日) 10時~15時	NTT千葉支店前	8時	40名
6 森林整備とジャガイモ収穫でミニ里山体験満喫コース(八街市)	5月31日(土) 9時30分~15時30分	NTT千葉支店前 JR総武本線八街駅前	8時 9時	80名

※各コースとも送迎バスの定員は40名です。現地集合もできますが、事前の申込みが必要です。森の中で作業ができる服装で参加してください。昼食は各自持参してください。

里山体験コースの申込方法

往復はがきにコース名(1通につき1コースまで)、参加者全員(1通につき4人まで)の住所、氏名、年齢、電話番号、送迎バス利用の有無と乗車場所、返信用あて先を書いて郵送。

締め切り 4月25日(金) 消印有効(申込多数の場合は抽選)

申込先 〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ちば里山センター

(問合せ) 電話 0438(62)8895

HP <http://www.chiba-satoyama.net/>

◎里山シンポジウム

「里山に託す私たちの未来」をテーマに「里山シンポジウム」を千葉県若葉区の東京情報大学で開催します。さらに、より具体的な議論を行うため分野ごとに22の分科会を設け、各地で工夫を凝らしたプログラムも実施します。(詳細は <http://www.satochiba.jp>)

日 場	時 所	5月18日(日) 10時30分～17時 東京情報大学 総合情報センターメディアホール (千葉県若葉区御成台4-1)
定 内	員 容	300名(当日先着順) ☆分科会報告 22分科会からの活動報告 ☆講 演 「里山：人と自然の共生の場」 講師 <small>いわつきくにお</small> 岩槻邦男さん (東京大学名誉教授、兵庫県立人と自然の博物館長、生物多様性JAPAN代表) ☆パネルディスカッション テーマ「里山と生命(いのち)のにぎわい」 コーディネーター 原慶太郎さん (東京情報大学教授)
問い合わせ	里山シンポジウム実行委員会 TEL 03(3824)6071	

平成19年度里山活動事例発表大会

平成20年3月8日(土)「プラザ菜の花」於いて

G20 ちば 2008

～気候変動と持続可能な社会への閣僚級対話記念事業でもある
第2回里山活動事例発表大会が開催されました。

今回の記念講演では、東京情報大学環境情報学科ケビン・ショート先生を招き、先生ご自身の体験を基にお話を伺いました。日本に来ておおよそ36年目、千葉県西部に住居を持ち20年あまりになる。現在先生の住んでいる千葉ニュータウン近郊でも、里山の風景が徐々に狭められている現状があり、「里山活動の推進は欠かせないものである。」と提唱していました。今、何故里山を大事にするか？ 一つ目の理由、子供の頃ご自身が里山で遊び、学び、育った体験がとてもすばらしかった事。二つ目の理由、子供の頃の



ケビン・ショート先生

記憶や思い出はずいぶん忘れていたが、里山で過ごした時の臭いは忘れていなかった。子供の頃感じた臭いが、今住んでいる千葉県にはありました。三つ目の理由、日本の面積はアメリカより狭いが、「自然の生物多様性が多い国は他にはないので、もう少し日本人が誇りに思ってもらいたい。」と訴えておられました。更に、楽しい活動でなければ長続きしにくいので、楽しみながら出来る事が大事です。とも言っておられました。

午後から、ちば里山センターに所属している下記5団体より、活動体験して楽しかった事、素晴らしかった事、困った事等々…、盛り沢山の活動発表がありました。今回2回目と言うこともあり、それぞれ工夫を凝らした発表で会場を盛り上げていました。



会場の様子

(テーマと発表者)

①北総里山倶楽部	テーマ：「千の葉になって里山修行一年生」	発表者：黒沢誠悦
②リコー千葉ふれあいの森	テーマ：「若葉区下泉里山保全活動」	発表者：杉田義勝
③(特非)しろい環境塾	テーマ：「里山を生かしたまちづくり」	発表者：増木 豊
④養老溪谷ふる里を守る会	テーマ：「おもてなしの心」	発表者：鈴木博之
⑤酒々井里山フォーラム	テーマ：「地域の方々と取り組む地域創造の里山づくり」	発表者：遠藤博之

企業と里山のコラボレーション

平成20年2月22日(金) 農林水産省講堂於いて



林野庁・社団法人国土緑化推進機構が主催した「企業の森づくりフェア2008」がおこなわれ、27都道府県の行政関係者や企業の環境・CSR担当者が多数参加しました。

早稲田大学人間科学学術院教授森川靖氏の基調講演「地球温暖化防止吸収源としての今後の展望」と代表都道府県の「企業の森づくりサポート制度」の紹介、実際に森づくりをおこなっている企業の発表がありました。各都道府県の展示ブースでは企業の誘致相談窓口を開設。千葉県には20社をうわまわる企業が相談に訪れました。千葉県は都心に近くなだらかな丘陵地帯のイメージから比較的手軽に活動できる点が企業の関心をひいたようです。ちば里山センターは千葉県で里山活動を希望する企業の窓口として、多数の企業の問い合わせをお待ちしています。

会員団体紹介

かずさ自然学校

私達のフィールドは東京湾に注ぐ小櫃川の支流、松川の最上流、大月川之最深部（源流域）にあります。入り組んだ谷津田の原風景を残し、山からの絞り水は夏場の乾期にも絶えることはなく、通年において豊かな水を供給してくれます。ウグイスが絶え間なく歌い、ホタルやトンボ、またサシバなどの猛禽類の生域にもなっています。しかし、現在では大月川流域一帯にも残土埋立地や土砂採掘所が入り込み、開発と自然のせめぎあいが続いて広がっています。かずさ自然学校では、5年前から耕作放棄された谷津田を開墾し始め、現在では7反5畝の谷津田で除草剤・殺虫剤を使用しないお米を作っています。



月に一度の農作業体験のイベントではたくさんの人達が田んぼに入り、「自然の中に飛び込み、体験を通して学び、豊に遊ぶ！」を実践し、土の感触、水の温度を体感しながら自然と触れ合っています。2008年（活動5年目）から田んぼと連なる山の整備も活動プログラムに組み込み、里山ならではの循環、繋がりを体験・体感できる場として、また、次世代へ残すべきものの架け橋として『めぐれ！ 7つの谷 / レインボープロジェクト』を立ち上げました。現代における里山との関わり方を模索するべく、私達のフィールドに残る7つの谷の再生と保全のプランを参加者の方と共に考え、実現していきたいと思っています。

☆7つの谷の今

田んぼになっている谷が2本、山が削られ無くなった谷が1本、残り4本の谷は耕作放棄されたままの谷（内1本の谷奥は残土埋立地）

☆こんな生き物・植物が住んでいます

生き物・オオタカ、サシバ、フクロウ等の猛禽類、カワセミなどの鳥類。ハイケホタル、トンボ類(多種類)、マシジミ、ホトケドジョウ、トウキョウサンショウウオ、ヨシノボリなど。

植物・カンアオイ、キンラン、ギンラン、タコノアシ、クマガイソウ、など。

☆ブログ【里山再生の記録】 <http://yaplog.jp/ewdiary/>

☆【瓦谷山たより】 <http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

かずさ自然学校の概要				
代表	設立年月日	会員数	活動地	活動日
岡本和幸	平成15年	20人 (平均)	袖ヶ浦市川原井新田地区 (大月川源流域)	月1回、一泊二日。3月～10月は田んぼ仕事。 11月～翌2月は里山の手入れ。(1月・8月は休み)

里山情報バンクの紹介



◆里山情報バンク整理番号：09-05-01

場所・面積：袖ヶ浦市林（平岡小学校から車で3分約1.7キロ）
約2.2ヘクタール

内容：現地は約30年生のスギ・ヒノキ林と、樹齢不明のコナラを主とする広葉樹林からなっています。スギ・ヒノキについては植栽以降整備の形跡はありません。斜面下部はササ類が繁茂しています。また、駐車スペースから現場への道もササ類が繁茂しているので刈払うのが望ましいです。所有者は、ササ類の刈払い・つる切り・間伐・広葉林の除伐・萌芽更新を希望しています。

◆里山情報バンク整理番号：09-06-02

場所・面積：君津市糸川（館山道君津ICから車で20分約9キロ）
約3.9ヘクタール

内容：現地は北側を林道に面している40年生程度のスギ林で、比較的平らな地形となっていて作業はやりやすいと思われます。上木のスギの管理については森林組合に委託していますが、管理がなかなか行き届かないため、ササやタケ類が繁茂しています。

所有者は、下刈、除伐の管理を希望しています。

